



税金が築く社会

和歌山県立古佐田丘中学校 三年

私の通学路では、何枚もの選挙ポスターが掲示されている。その中でも、消費税の引き下げを支持する内容が大きく書かれているポスターが特に目を引いた。これを見た私は、煩わしく感じる消費税を下げることは、誰しも望んでいることなのだと思う。自然と私も、税に対して否定的な印象を抱くようになっていった。

税金が最も多く使われているのは、社会保障だ。社会保障は、年金や医療など、私たちが健康に安心して生活するために必要な仕組みのことだ。そのうちの一つに生活保護制度がある。事故や病気で働けなくなり、十分な生活ができなくなった人を支える制度だ。私は、実際に生活保護を受けた経験のある方から話を聞いた。その方は、母親が認知症を患い、生活が苦しくなったという。

その方も当初は、働いても働いても税金に取られていくことに不満を持ち、また周囲の目も気になり、生活保護を受けることに強い抵抗があったそうだ。しかし現在では、親の介護と仕事を両立させ、起業するまでになった。生活保護があったからこそ新たな挑戦ができたのだと話していた。それ以来、その方は税に対しての認識が変わり、かつての自分と同じような境遇の人たちが希望を持てるようにという思いを込めて、税金を納めているという。

この制度について、自分たちが支払った税金が自分たちのために使われていないと感じ、税を憎い存在として批判する人もいるだろう。私も、これまで税に対して感謝する機会が少なかったからか、税に良い印象を持っていたとは言えない。しかし、この話を聞いたことで、税は誰一人取り残されることのない社会を築くうえで大切な役割を果たしているのだと気づいた。

消費税は一パーセントにつき約二・七兆円の財源になると言われている。もちろん一パーセントでも減れば、生活が少し良くなったとすぐに実感できるかもしれない。しかし、その分のしわ寄せがあると忘れてはいけない。生活保護を必要とする人々の生活が脅かされるだけでなく、災害対策が不十分になったり警察や救急などの公共サービスが有料化される可能性もある。目先の問題は解決できても、長期的な安心は守られないのだ。

私は、税に対して単に否定的な見方をするのではなく、その用途や、それによって私たちの生活がどのように支えられているのかを深く考えることが重要だと感じた。自分たちが負担する税金の裏には、社会全体で支え合う仕組みがあることを意識しながら、これからの生活を送っていききたいと思う。